東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2008 年 9 月 30 日

慈 悲

信者の皆様。人類に共通する善のために、知性に境界を示し、知性の手綱となる一つの力があります。それが心です。知性は、単独では常に自分の利益を追い求めます。心を伴わない知性が、原子爆弾を作り出すのです。イスラーム文明においては、知性について形而上学的知識があります。それによって知性がもたらしたものをふるいにかけ、有意義なものとしてきたのです。知を偶像化することは、人々を大きな災いへと導きます。２０世紀は知が偶像化された世紀でした。諸民族が互いに、無慈悲な形で侵略を行ないあったのです。今日の世界において、人類にもたらされるものは全て、無慈悲さによるものです。だから、心をより必要としているのです。知性が心によって手綱をひかれること、心も知性によって豊かにされることが必要なのです。アッラーは「ところがその後、あなたがたの心は岩のように硬くなった。いやそれよりも硬くなった。」（雌牛章第７４節）といわれ、心の機能について指摘されています。ムスリムが柔らかい心を持つことを勧められておられるのです。

親愛なるムスリムの皆様。人には天使のような側面と、シャイターン的なものへと開かれた窓とがあります。人間の天使的な側面はよい言葉や振舞いによって示されます。そして天使のような存在となります。あるいは、よくない言葉や振舞いによって低俗な側面が刺激され、低俗な存在となるのです。ここで私たちがやるべきこととは何でしょうか。それは、よいことを命じ、悪から遠ざけることです。しかし今日の世界においては、非常に興味深い形で人の低俗な側面が刺激され続けています。広告がその最も重要な例でしょう。この上なく悪いもの、卑劣なものが紹介されているのです。

大切な兄弟姉妹の皆様。神聖なものとは、人に良心的な感覚を与える唯一の存在です。そのようなものがなければ、私たちには魂がないといえるでしょう。人は永遠であることに不足を持つ存在です。しかし永遠性が人間を完成させるのです。４０年か５０年後にいなくなるのであれば、人はなぜこの世界で生きているのでしょうか。この世界にいることをなぜ選択するのでしょうか。神聖な存在と結びつきを持つことによって人は、何故存在しているのか、どのように生きるべきかという知識に到達するのです。ただ自らの利益や取り分、低俗な欲望のためだけに生きる人を、動物と区別するものが何かあるでしょうか。人を動物から区別する最も基本的な要素の一つは、公正さという感覚を持っていることでしょう。公正さや徳のない社会で、技術のみが発展することに何の意味があるでしょうか。そのために、人間には一つの基準制度が必要なのです。言い換えるなら、より崇高なものへと向かうことが必要なのです。道徳教育は若者や子供たちにこの世界の儚さを教えるものであるべきでしょう。野外学習を行うのであれば、病院、精神病院、白血病の子供たちの病棟、監獄、そして墓地などの訪問がなされるべきでしょう。死と向き合うことによってのみ、欲望や欲求をより強くコントロールすることができるのです。より慈しみ深くなることができるのです。このことを成功することができたならば、ただ人間に対してのみではなく、この世の全ての被造物に対し慈しみ深く振舞うことを学ぶこともできるでしょう。

親愛なるムスリムの皆様。イードの機会を生かして、親友や親戚を訪問し、彼らのドゥアーを得ること、子供たちを喜ばせること、立腹していればそれをおさめることを強くお勧めいたします。あなた方のイードが祝福されたものとなりますように。あなた方の生活が平安で満たされていますように。アッラーのお慈悲とお恵みがありますように。